園長コラム～みんなが笑顔になれる保育園への道～　2026年8月

割窓理論　～　Fukasawamill　Flower　Path　～



●ルクミーのおたよりでもお知らせしましたが、保育園東側（園庭が見える側）のフェンス沿い一帯に、色とりどりの花を植えました。



●実は、今回ここに花を植えたのには理由があります。こちら側の道路の道幅は狭く、また、南北に通り抜けられる道は他にも多数あることから、日頃から通行量はそれほど多くありません。そのためか、早朝や夜間に通行される方がここで路上喫煙し、吸い殻をそのまま捨てていく事案が後を絶たなかったのです。百歩譲ってポイ捨てが路上に行われるのならばまだしも、過去には吸い殻が園庭に投げ入れられていたこともあり、乳幼児をお預かりする施設としては非常に頭を悩ませてきた問題でした。

●吸い殻を見つけるたびに貼り紙をすることで、一時的にその数は減少するのですが、もはや習慣となっているのか、またしばらくすると毎日のように同じ銘柄の吸い殻が捨てられているのです。



●そこで私が思い出したのが、ずいぶん以前に新聞で読んだ「割窓理論」です。これは、アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリングらが提唱した犯罪心理学の理論です。当時ニューヨーク市長だったルドルフ・ジュリアーニ氏が、ニューヨークの地下鉄で頻発していた凶悪犯罪を減少させるために応用したのがこの割窓理論でした。ジュリアーニ氏はまず、落書きだらけだった地下鉄構内の落書きを、巨額の予算をかけて全て消し去ることから始めました。すると、地下鉄構内における犯罪の数は減少に転じ、やがてニューヨーク市全体の治安が良くなったというものでした。



●なぜ落書きを消すだけで犯罪減少に繋がったのか。そのメカニズムは次のとおりです。すなわち、窓ガラスが割れていたりや落書きがずっと放置されているような場所に対しては、人は「そこには誰も注意を払っていないのだな…」と考えるようになります。すると、その場所を利用する人の心の中に少しずつモラルハザードが起き、そのまま放置すればその場所が犯罪の温床へとエスカレートしてしまいます。だからこそ、人の手をかけ、モラルハザードの原因を絶つことで、「ここな

らルール違反をしても大丈夫」という人々の意識が払拭され、犯罪の温床となることを未然に阻止できるのです。

●ふかさわミルのフェンス沿い道路も、人通りが少なく、近隣住民の目もないことが、喫煙者の「誰も見てないから大丈夫…」という心理状態を生み出し、たばこのポイ捨てに繋がっているのだろう。それならば、この場所をいっそのこと地域の方が遠回りしてでもこまめに通りたくなるような、**明るくて楽しい場所に変えてみてはどうか**。そう考え、手始めに花を植えてみることにしたのです。

●「明るくて楽しい場所」がコンセプトということで、勝手に**「Fukasawamill Flower Path（ふかさわミル保育園花の小路）」（以下 FFP）**と命名しました。



●また、ここを通る園児のご家庭や近隣の方がただ「きれいねえ」と言って通りすぎるだけでなく、花の名前やその特徴がその場で分かり、愛着を持っていただけるような説明書きを設置することにしました。



●そして、花の色は、赤や黄色、ピンクやオレンジなど、できるだけ明るいものを選びました。せっかく花を植えても昨今のこの暑さです。酷暑に負けぬよう、花の種類もペチュニアやマーガレット、日日草など、乾燥や暑さに強い品種の花を選びました。

●さらに、結局水やりが行き届かず枯れていたりぐったりしているようでは、花を植えたことがむしろ逆効果になります。

そこで、これまであまり出番がなかった園庭の地下散水栓を活用し、DIY で散水タイマーを取り付け、そこから細かい穴がたくさん開いている全長30メートルのホースをFFP全体に張り巡らせました。こうして毎日必ず朝夕 2 回、決められた時間になると一定時間まんべんなく水やりが行われる仕組みが出来上がりました。





●実は、開園以来これまでも、この場所に植物を植えようと試みたことが何度かありました。しかし、普段なかなか職員の目が届きづらい場所ということもあり、いずれも上手くはいきませんでした。しかし、今回この自動散水システムを取り入れたことで、懸案の水不足問題が解消され、草花たちは毎朝新しい花を元気よく咲かせてくれています。

●さて、こうした FFP への取り組みの効果は、すぐに目に見える形で表れだしました。まず、花の手入れをしていると、その後ろを微笑みながら会釈して通られるお散歩の方の数が増えたように感じられます。また、会釈だけでなく「とても可愛らしい花を植えてくれてありがとう。花の名前も思い出せるから、毎日楽しませてもらっているわ」と、直接感謝の言葉

をかけてくださる方も現れました。さらに嬉しいことに「いつも用事で出かける時は、必ずここの前を往復することに決めているの」と言ってくださる方もいらっしゃいます。

●以上のように近隣の方に注目していただいたこともあってか、FFP を整備した以降は路上にたばこの吸い殻は全く見られなくなりました。手入れが行き届いた、多くの人の思いがつまっている場所を平然と汚すような行為は、そうそうできるものではありません。しかし私は、願わくはこの道路が、路上喫煙していた方にとっても、何となく足を運びづらくなった場所ではなく、懸命に咲く花々から一日の始まりに元気をもらえる場所であっていてほしいと思っています。



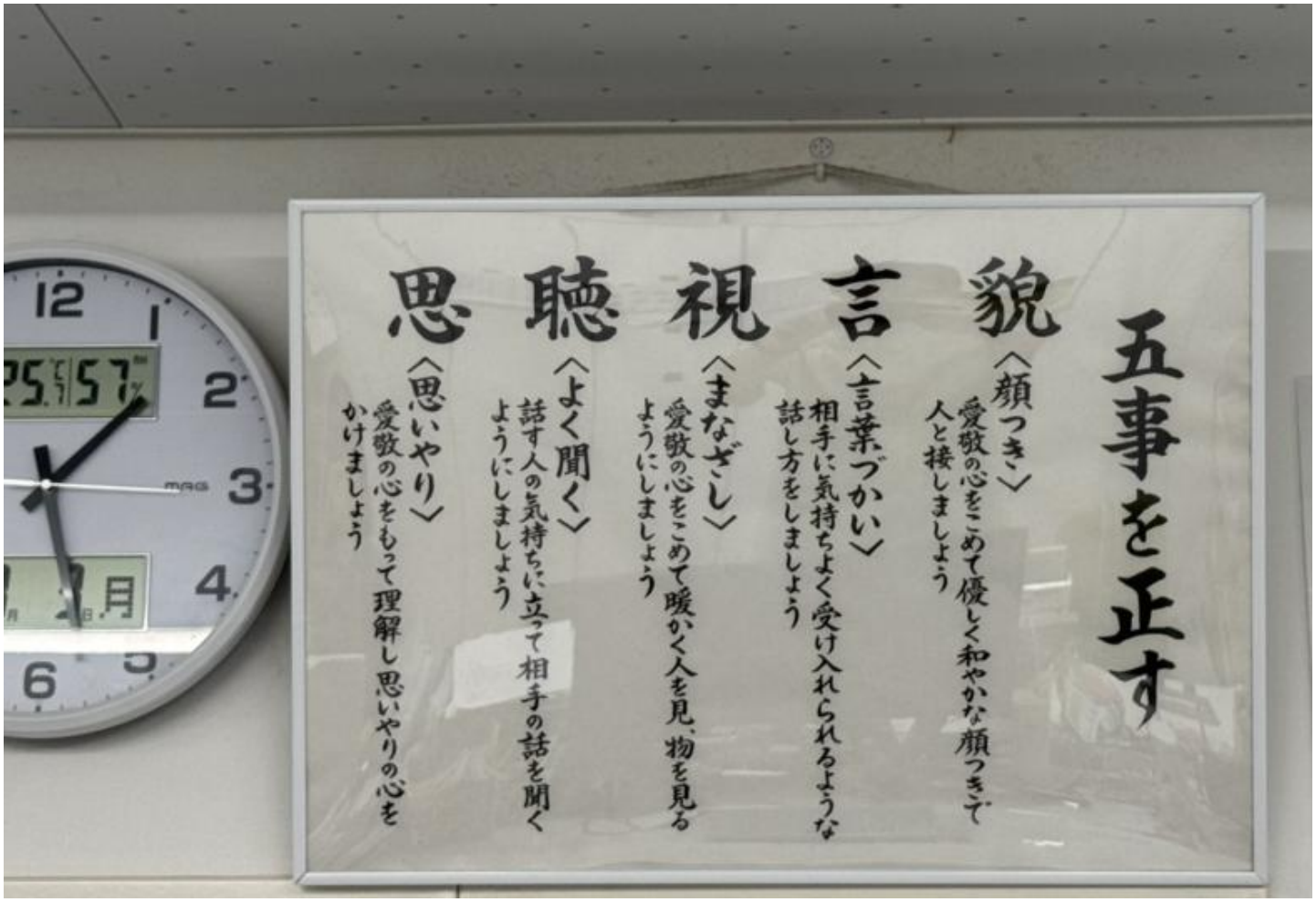
●思えば、この「割窓理論」は、以前の園長コラムでも紹介した鍵山秀三郎氏の「人の心は毎日目にしているもの、接しているものに似てくる」という言葉や、道元禅師の「霧の中を行けば覚えざるに衣しめる。よき人に近づけば、覚えざるによき人となるなり。（意訳：霧が立ち込める中を歩いていると思いがけず衣服がしっとりと湿っていることがある。同じように人格の優れた立派な人のそばに身を置けば、知らぬ間に自分もその影響を受け、人格が自ずと陶冶されていく）」という言葉を、反対側から表現したものに他なりません。

●何度も書いているかもしれませんが、保育園は子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場所です。だからこそ、そこには美しいもの、清潔で安心安全なものといった物理的な環境と、慈愛と情熱に満ちた優しい保育者が根気よく子どもに接するという人的な環境の両面が求められます。

●この人的な環境という面では、世の中で「不適切保育」というワードが新聞やニュースで頻繁に取り沙汰される中、わがふかさわミル保育園は有難いことに、いつも無償の愛と優しさに溢れる真面目な職員に恵まれています。このことは、未来ある大事なお子様をお預かりしている保育園の園長としてはこの上なく安心できる要素であり、同時に誇りに思っているところです。

●もちろんそうした人的環境は単なる偶発的な天恵や奇貨として捉えず、恒久的な園の文化にしなければなりません。

そんな意図もあって、事務所には、写真のような江戸時代の陽明学者である中江藤樹が説いた言葉を掲げ、職員たちの真心の発露を促すきっかけにしています（過去の記事はこちら。パスワードは sa06 です）。



＜五事を正す＞

貌 :穏やかな顔つきで子どもに接しよう

言 :優しい言葉で子どもに接しよう

視 :温かいまなざしで子どもに接しよう

聴 :子どもの声に真摯に耳を傾けよう

思 :思いやりのある真心で子どもに接しよう

●職員たちに対しては「この言葉を僕が 24 時間常に守れているとは言えないけれど、それでも保育者としていつも大切にしようと心掛けていることです。」と説明しています。

●水をやらず、何ら手入れもされず溌剌と咲き続ける草花は存在しません。人間の心もまた然りです。園庭の草花だけでなく、職員の心にも常に潤いを与え、手入れをし、それを仕組み化するためには…。今日もそんなことを考えながら、園庭や玄関、FFP に植えた植物の手入れをしていました。

園長　橋本　英明

●人間の心はその波長に合ったものを引き寄せるようにできているらしい。怖れは怖れを、不安は不安を、怒りは怒りを、引き寄せる。人を妬み恨む心、驕り慢心する心は、それに相応しい事象を引き寄せる。逆もまた真である。常に心を善意で満たしている人は善意を引き寄せ、人に親切にしている人には親切が、感謝している人には感謝が返ってくる。

●心には力がある。その力はプラスにもマイナスにも働く。それ故、古の聖賢は心を鍛え、調えることの必要を教えた。

（引用元:「人生の法則」 藤尾秀昭著　致知出版社）

